

Table6-1 Tスコア換算表（教師評価：男児）

素点	Tスコア						素点
	SRS 総合得点	社会的 気づき	社会 認知	社会的 コミュニケーション	社会的 動機づけ	自閉的 常同症	
0	36	34	36	38	34	43	0
1	36	37	39	39	36	45	1
2	37	40	41	40	39	47	2
3	37	43	43	41	41	49	3
4	38	45	45	42	44	51	4
5	38	48	47	44	46	52	5
6	39	51	49	45	48	54	6
7	39	54	51	46	51	56	7
8	39	56	53	47	53	58	8
9	40	59	55	48	56	60	9
10	40	62	57	49	58	62	10
11	41	65	59	50	61	64	11
12	41	67	61	51	63	66	12
13	41	70	63	52	65	68	13
14	42	73	65	53	68	70	14
15	42	76	67	55	70	71	15
16	43	78	69	56	73	73	16
17	43	81	71	57	75	75	17
18	44	84	73	58	78	77	18
19	44	87	75	59	80	79	19
20	44	89	77	60	82	81	20
21	45	92	79	61	85	83	21
22	45	95	81	62	87	85	22
23	46	98	83	63	90	87	23
24	46	100	85	65	92	88	24
25	46		87	66	95	90	25
26	47		89	67	97	92	26
27	47		92	68	100	94	27
28	48		94	69	102	96	28
29	48		96	70	104	98	29
30	49		98	71	107	100	30
31	49		100	72	109	102	31
32	49		102	73	112	104	32
33	50		104	75	114	105	33
34	50		106	76		107	34
35	51		108	77		109	35
36	51		110	78		111	36
37	51			79			37
38	52			80			38
39	52			81			39
40	53			82			40
41	53			83			41
42	54			85			42
43	54			86			43
44	54			87			44
45	55			88			45
46	55			89			46
47	56			90			47
48	56			91			48
49	56			92			49

次のページに続く →

Table6-2 Tスコア換算表（教師評価：男児） 続き

素点	Tスコア						素点
	SRS 総合得点	社会的 気づき	社会 認知	社会的 コミュニケーション	社会的 動機づけ	自閉的 常同症	
50	57			93			50
51	57			95			51
52	58			96			52
53	58			97			53
54	59			98			54
55	59			99			55
56	59			100			56
57	60			101			57
58	60			102			58
59	61			103			59
60	61			105			60
61	61			106			61
62	62			107			62
63	62			108			63
64	63			109			64
65	63			110			65
66	63			111			66
67-68	64						67-68
69-70	65						69-70
71-73	66						71-73
74-75	67						74-75
76-78	68						76-78
79-80	69						79-80
81-82	70						81-82
83-85	71						83-85
86-87	72						86-87
88-90	73						88-90
91-92	74						91-92
93-94	75						93-94
95-97	76						95-97
98-99	77						98-99
100-102	78						100-102
103-104	79						103-104
105-106	80						105-106
107-109	81						107-109
110-111	82						110-111
112-114	83						112-114
115-116	84						115-116
117-118	85						117-118
119-121	86						119-121
122-123	87						122-123
124-126	88						124-126
127-128	89						127-128
129-131	90						129-131
132-133	91						132-133
134-135	92						134-135
136-138	93						136-138
139-140	94						139-140
141-143	95						141-143
144-145	96						144-145

次のページに続く →

Table6-3 Tスコア換算表（教師評価：男児） 続き

素点	Tスコア						素点
	SRS 総合得点	社会的 気づき	社会 認知	社会的 コミュニケーション	社会的 動機づけ	自閉的 常同症	
146-147	97						146-147
148-150	98						148-150
151-152	99						151-152
153-155	100						153-155
156-157	101						156-157
158-159	102						158-159
160-162	103						160-162
163-164	104						163-164
165-167	105						165-167
168-169	106						168-169
170-171	107						170-171
172-174	108						172-174
175-176	109						175-176
177-179	110						177-179
180-181	111						180-181
182-183	112						182-183
184-186	113						184-186
187-188	114						187-188
189-191	115						189-191
192-193	116						192-193
194-195	117						194-195

Table7-1 Tスコア換算表（教師評価：女兒）

素点	Tスコア						素点
	SRS 総合得点	社会的 気づき	社会 認知	社会的 コミュニケーション	社会的 動機づけ	自閉的 常同症	
0	37	36	37	40	35	45	0
1	37	39	39	41	37	48	1
2	38	42	42	42	40	51	2
3	38	46	44	44	42	53	3
4	39	49	47	45	45	56	4
5	39	52	50	47	48	59	5
6	40	55	52	48	50	62	6
7	40	58	55	49	53	65	7
8	41	62	57	51	55	68	8
9	42	65	60	52	58	71	9
10	42	68	62	53	61	74	10
11	43	71	65	55	63	77	11
12	43	74	67	56	66	80	12
13	44	77	70	58	69	83	13
14	44	81	72	59	71	86	14
15	45	84	75	60	74	89	15
16	45	87	77	62	76	92	16
17	46	90	80	63	79	95	17
18	46	93	82	64	82	97	18
19	47	96	85	66	84	100	19
20	47	100	88	67	87	103	20
21	48	103	90	68	90	106	21
22	49	106	93	70	92	109	22
23	49	109	95	71	95	112	23
24	50	112	98	73	97	115	24
25	50		100	74	100	118	25
26	51		103	75	103	121	26
27	51		105	77	105	124	27
28	52		108	78	108	127	28
29	52		110	79	111	130	29
30	53		113	81	113	133	30
31	53		115	82	116	136	31
32	54		118	84	118	139	32
33	54		121	85	121	142	33
34	55		123	86		144	34
35	55		126	88		147	35
36	56		128	89		150	36
37	57			90			37
38	57			92			38
39	58			93			39
40	58			95			40
41	59			96			41
42	59			97			42
43	60			99			43
44	60			100			44
45	61			101			45
46	61			103			46
47	62			104			47
48	62			105			48
49	63			107			49

次のページに続く -

Table7-2 Tスコア換算表（教師評価：女兒） 続き

素点	Tスコア					素点
	SRS 総合得点	社会的 気づき	社会 認知	社会的 コミュニケーション	社会的 動機づけ	
50	63			108		50
51	64			110		51
52	65			111		52
53	65			112		53
54	66			114		54
55	66			115		55
56	67			116		56
57	67			118		57
58	68			119		58
59	68			121		59
60	69			122		60
61	69			123		61
62	70			125		62
63	70			126		63
64	71			127		64
65	72			129		65
66	72			130		66
67-68	73					67-68
69-70	74					69-70
71-72	75					71-72
73-74	76					73-74
75-76	77					75-76
77-78	78					77-78
79	79					79
80-81	80					80-81
82-83	81					82-83
84-85	82					84-85
86-87	83					86-87
88-89	84					88-89
90-91	85					90-91
92-93	86					92-93
94	87					94
95-96	88					95-96
97-98	89					97-98
99-100	90					99-100
101-102	91					101-102
103-104	92					103-104
105-106	93					105-106
107-108	94					107-108
109	95					109
110-111	96					110-111
112-113	97					112-113
114-115	98					114-115
116-117	99					116-117
118-119	100					118-119
120-121	101					120-121
122	102					122
123-124	103					123-124
125-126	104					125-126
127-128	105					127-128

次のページに続く →

Table7-3 Tスコア換算表（教師評価：女兒） 続き

素点	Tスコア						素点
	SRS 総合得点	社会的 気づき	社会 認知	社会的 コミュニケーション	社会的 動機づけ	自閉的 常同症	
129-130	106						129-130
131-132	107						131-132
133-134	108						133-134
135-136	109						135-136
137	110						137
138-139	111						138-139
140-141	112						140-141
142-143	113						142-143
144-145	114						144-145
146-147	115						146-147
148-149	116						148-149
150-151	117						150-151
152	118						152
153-154	119						153-154
155-156	120						155-156
157-158	121						157-158
159-160	122						159-160
161-162	123						161-162
163-164	124						163-164
165-166	125						165-166
167	126						167
168-169	127						168-169
170-171	128						170-171
172-173	129						172-173
174-175	130						174-175
176-177	131						176-177
178-179	132						178-179
180	133						180
181-182	134						181-182
183-184	135						183-184
185-186	136						185-186
187-188	137						187-188
189-190	138						189-190
191-192	139						191-192
193-194	140						193-194
195	141						195

Table8 Tスコアに基づく群分けと、評価者別および性別の素点

群分け	T 得点	保護者評価		教師評価	
		男児	女児	男児	女児
ASD-Possible	76～	83 - 195	75 - 195	95 - 195	73 - 195
ASD-Probable	60-75	53 - 82	48 - 74	57 - 94	43 - 72
ASD-Unlikely	～59	0 - 52	0 - 47	0 - 56	0 - 42

(参考)米国版 SRS

群分け	T 得点	保護者評価		教師評価	
		男児	女児	男児	女児
ASD-Possible	76～	87 - 195	74 - 195	133 - 195	103 - 195
ASD-Probable	60-75	54 - 86	45 - 73	79 - 132	59 - 102
ASD-Unlikely	～59	0 - 53	0 - 44	0 - 78	0 - 58

平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業 精神障害分野）  
1 歳からの広汎性発達障害の出現とその発達の变化：地域ベースの横断的および縦断的研究

### 分担研究報告書

一般児童における発達障害の有病率と関連要因に関する研究②

### 研究協力報告書

通常学級に在籍する一般児童・生徒における  
自閉症的行動特徴と発達精神医学的ニーズとの関連

研究協力者 森脇愛子（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所）  
小山智典（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所）  
神尾陽子（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所）

#### 研究要旨

【目的】本研究は、通常学級に在籍する一般児童・生徒における、自閉症的対人行動特徴と発達精神医学的ニーズとの関連について検討することを目的とする。

【方法】全国の通常学級に在籍する小学 1 年生～中学 3 年生の児童・生徒の保護者に、自閉症的行動特徴の把握のために SRS（Social Responsiveness Scale：対人応答性尺度）日本語版を、発達精神医学的な問題とニーズの把握のために SDQ（Strength and Difficulties Questionnaire：子どもの強さと困難さアンケート）日本語版を配布し、25,075 名分（男児 12762 名、女児 12313 名）の有効回答を得た。両得点の相関および SRS3 群における SDQ の症状程度別の割合、臨床域となるサブカテゴリー一数の違いを分析した。

【結果と考察】SRS と SDQ の両得点間に有意な相関関係があった。特に、SRS の T スコア 76 以上の ASD 診断可能性の高い ASD-Possible 群は極めて高率に、複数領域に渡る深刻な発達精神医学的ニーズを併せ持っていることが明らかになった。また ASD 診断閾下となるような軽症な子どもにも何らかの精神症状が併発する可能性があるため、ASD 児と閾下児に対しては教育的支援のみならず医療的ケアのニーズが高いことが示された。

#### A. 研究目的

特別支援教育（学校教育法一部改正,2006）によって、通常学級における自閉症スペクトラム障害（Autism Spectrum Disorders: ASD）のある子どもに対する、個々の特性とニーズに応じた支援が広がっている。しかし、近年、知的障害を伴わない高機能 ASD や診断に至

らない臨床閾下となるような軽症例でも、情緒や行動などの合併症状によって適応が悪くなる場合があることが指摘されている（Kanne,2009；神尾,2010）。この情緒や行動などの問題、つまり発達精神医学的ニーズは、臨床域ともなれば医療的ケアが欠かせないものである。つまり、学齢期において



ASD の行動特徴を持つ場合には、学校での教育的支援のみならず、医療的ケアの必要性が高いのかもしれない。

一般児童・生徒の中で、自閉症的行動特徴の分布は、なめらかに連続しており、診断閾下となる者も多数存在することが分かっている（本報告書：SRS 標準化を参照）が、自閉症的行動特徴の程度によって、発達精神医学的ニーズはどのくらいの割合で併存するのか、自閉症的行動特徴が重症になるほど、発達精神医学的ニーズも症状が強くなるのかを明らかにする必要がある。

そこで本研究では、全国の小・中学校に在籍する一般児童・生徒の保護者に質問紙による大規模調査を実施し、子どもの自閉症的行動特徴と発達精神医学的ニーズとの関連を分析することを目的とする。

## B. 研究方法

### 1) 対象

2009 年 12 月～2010 年 4 月に行った「子どもの発達アセスメントの有用性に関する調査」（調査手続きは別途報告書を参照）によって、協力の得られた全国の小・中学校の通常学級在籍児童・生徒 87,548 人（小学校 1 年生～中学校 3 年生）を対象に、その保護者に調査票への回答を依頼した。回収された調査票のうち、子どもの性別および学年が未記入であるもの、また使用したいずれかの質問紙に 1 割以上の欠損があるものは除外し、25,075 名分（28.6%）を有効回答とした。

### 2) 質問紙

*Social Responsiveness Scale : SRS (対人応答性尺度) 日本語版 (神尾ら, 2009)*

自閉症的行動特徴の程度を定量的に測定し、

診断カテゴリーによらない ASD 診断群から閾下群までを連続量で捉えることのできる質問紙である (Constantino, 2003 ; 神尾, 2009)。SRS の詳細は別途報告書に記載した。

「あてはまらない (0 点)」～「ほとんどいつもあてはまる (3 点)」の 4 件法で評価され、SRS 合計得点を算出した。

また、標準化された SRS 日本語版（保護者評価）に基づき、T スコア 76 以上の ASD-possible 群、T スコア 60-75 の ASD-probable 群、T スコア 59 以下の ASD-unlikely 群として自閉症的行動特徴の程度別に分類し (SRS3 群)、後の分析に使用した。

### *Strengths and Difficulties Questionnaire*

*:SDQ (子どもの強さと困難さアンケート) 日本語版 (Matuishi, 2008)*

Goodman(1997)によって開発され、保護者や教師によって評価できる子どもの行動スクリーニングのための質問紙である。多数の翻訳版が作られ、診断補助ツール、スクリーニングツールとして欧米諸国でも広く用いられている。SDQ 英国原版は 100 項目以上ある子どもの行動チェックリスト (Child Behavior Checklist : CBCL) との相関が高く、SDQの方がむしろ少ない項目数でCBCLよりも良い感度を持つという報告もあり (Goodman, 2000)、子どもの情緒面と行動面の問題について簡便に量的把握ができるとして臨床的有用性が示されている。原版、各国翻訳版、および日本語版の質問票と、得点算出のためのアルゴリズムは、SDQ ウェブサイト (<http://www.sdqinfo.org/>、または厚生労働省 HP) から無料でダウンロードが可能である。

日本語版は、保護者評価において英国原版と同様に、「Emotional Symptoms：情緒の問題」「Conduct Problem：行為の問題」「Hyperactivity：不注意・多動性」「Peer Problem：仲間関係の問題」「Prosocial Behavior：向社会的行動の強さ」という5つのサブスケールによる尺度構造の妥当性が明らかにされている (Matsuishi et al., 2008)。本研究でも原版と同様に、総合的な困難さ得点 (向社会性のカテゴリーを除く4カテゴリーの総和 Total Difficulty Score：得点範囲=0~40点) および5つのサブカテゴリー得点 (得点範囲=0~10点：向社会性は高得点が強さ、それ以外は高得点が困難さ) を算出した。

また、英国原版、独版によると、総合得点および各サブカテゴリーの得点は症状の程度によって、それぞれ約80%の normal range (定型域)、10%の borderline range (境界域)、10%の clinical (or abnormal) range (臨床域) に分類できることが示されており (Goodman, 1997 ; Woerner, 2004)、本研究でもこの定義 (SDQ3群) を後の分析に使用した。

### 3) 手続き

解析の前処理として、各質問紙の1割未満の欠損項目 (SRS6項目、SDQ2項目) には性別ごとの該当項目中央値で補完し得点化した。

まず、各質問紙について記述統計を求め、SDQは得点分布を示した。次にSRSとSDQ両得点の相互関連性を明らかにするために、Pearsonの積率相関係数を用いて相関分析を行った。さらに、自閉症的行動特徴の程度に応じた発達精神医学的な問題の出現率を明らかにするために、SRS3群別にSDQの総合

および5サブカテゴリーの程度別3群の割合を、3×3のクロス表に示し、 $\chi^2$ 検定を行った。また、臨床域となるSDQサブカテゴリー数をカウントし、SRS3群における合併症状の領域数の割合を比較した。

なお、SRS (保護者評価) は男女に分布の違いが確認され、性別に標準化されているため、本研究の分析もすべて性別に行った。一方SDQは3群の程度分類に際し、性別以外に学年の影響を考慮して、総合得点と各サブカテゴリー得点を定型域80%、境界域10%、臨床域10%の性別・学年別カットオフポイントを設定した。

データの解析は統計処理ソフトのSPSS17.0 for Windows 日本語版を用いた。

### (倫理面への配慮)

本研究はすべて、疫学研究に係る倫理指針に基づき、国立精神・神経医療研究センター倫理委員会の承認を得て行っている。質問紙は保護者から協力の同意を得て行い、回答は無記名で、内容には個人を特定可能な情報は一切含まれていない。

## C. 研究結果

### 1) 記述統計

SRSの総合得点、SDQの総合得点および各サブカテゴリー得点について、人数 (n)、平均値 (Mean)、標準偏差 (SD) を示した (Table1)。また、SDQは総合得点および各サブカテゴリーの得点分布を示した (Fig.1)。

### 2) SRS得点とSDQ各得点の相関

SRS得点とSDQ総合得点、およびSRS得点とSDQ各サブカテゴリー得点の相関を調べたところ、いずれも有意な相互関連が見

られた (Table2)。

SRS 得点と各サブカテゴリ得点には中程度の正の相関 ( $r=.31\sim.56$ ) であったが、SRS 得点と SDQ 総合得点とは男児  $r=.68$ 、女児  $r=.63$  と、ともに強い正の相関が見られた。

### 3) SRS3 群における SDQ3 群の割合の違い

SRS3 群における SDQ3 群の度数 (n) と調整済み残差を、SDQ 総合得点と各サブカテゴリ毎に示した (Table3-1-2)。またその割合を図に示した (Fig.2-1~3)。

人数の偏りを調べるために、 $\chi^2$  検定を行ったところ、男女とも SRS3 群における SDQ3 群の割合に有意な偏りが見られた ( $ps<.001$ )。

### 4) SRS 程度別の発達精神医学的ニーズの重なり

SDQ の 5 サブカテゴリのうち臨床域となるサブカテゴリ数をカウントし (0~5 カテゴリ)、SRS3 群別に臨床域となったサブカテゴリの数の割合を示した (Fig.3)。

ASD-Possible 群では、症状なしが男児 6.1%、女児 12.9%、1 サブカテゴリのみの臨床症状が男児 19.3%、女児 22.5%、2 サブカテゴリが男児 31.8%、女児 30.8%、3 サブカテゴリ以上は男児 42.8%、女児 20.5% で、大多数の子どもが複数領域にわたって併存していた。

ASD-Probable 群では、症状なしが男児で 37.7%、女児で 43.3%、1 カテゴリのみの男児 37.0%、女児 31.1%、2 カテゴリ以上が男児で 25.2%、女児で 24.2% となり、男女で類似する傾向が見られた。

ASD-Unlikely 群では、複数領域にわたっ

て臨床症状が現れる者は 1%に満たなかった。

## D. 考察

本研究では、全国の小・中学校の通常学級に在籍する一般児童・生徒を対象に SRS と SDQ を実施し、自閉症的行動特徴と発達精神医学的ニーズとの関連を検討した。

まず、SRS 得点と SDQ 総合得点および各サブカテゴリ得点には相互の関連性が見られ、自閉症的行動の傾向が高まるほど、発達精神医学的ニーズが重症化することが示唆された。しかし、単独の症状というよりは、総合的な情緒・行動の問題と強く関連していたことから、症状の程度と複数領域にわたる問題の重なりが影響すると考えられた。

そこで、自閉症的行動特徴の程度による SRS3 群別に、発達精神医学的ニーズの程度 SDQ3 群の割合を比較した結果、ASD-Possible 群は各症状の合併率が高く、症状程度も臨床域であることが多かった。また、この群では、複数領域に渡って合併症状は複数領域に渡って顕在化することが示された。

さらに重要な点として、ASD 診断閾下群の ASD-Probable 群でも約半数が境界域以上の全般的な発達精神医学的ニーズを持ちやすいことが分かった。このことから、一般母集団に多数存在する ASD 閾下児においても、情緒・行動の問題が合併しやすい可能性が十分にあり、重篤化すると適応困難などを引き起こす危険性があると考えられた。

このように、自閉症的行動特徴の程度を一定以上有する子どもでは、高い率で医療的ケアの対象となるような発達精神医学的ニーズを併せ持つこと、そして診断の有無にかかわらずそのリスクがあること、またその症状は

複数領域に渡り日常生活に大きな影響を及ぼしていることが示唆された。

近年、近年、ASDにおける不安や抑うつ傾向といった、いわゆる特定の発達精神医学的ニーズに対して、認知行動療法 (Cognitive-Behavioral Therapy : CBT) が有効であるとした報告がある (Wood et al., 2009)。このような合併症の軽減をターゲットとしたASD児への支援がQOLや適応状態にどのような影響を与えるかについて順団的に検討することも今後の課題であるだろう。

## E. 結論

本研究によってわが国の一般児童・生徒における自閉症的行動特徴と発達精神医学的ニーズの相互関連性が確認された。

ASD診断のある子どもに限らず、多数存在する診断閾下群においても、ASDの行動特徴が発達精神医学的ニーズのリスク要因となる可能性が示唆された。

つまり、教育現場においてASD児および多数の閾下児に対する教育的支援に加えて、発達精神医学的なケアの必要性が高いと考えられる。医療的ケアには症状の定期的なチェックによって早期発見を行い、治療介入とフォローの体制も必要であると考えられる。

本研究結果は、教育と医療の連携推進のためにも重要なエビデンスとなると考えられる。

(謝辞)

本研究にご協力いただいた各教育委員会、小・中学校の先生方、多くの保護者の皆様に感謝申し上げます。

F. 健康危険情報 なし

## G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表

森脇愛子・小山智典・神尾陽子 (話題提供)  
対人応答性尺度 (SRS) 日本語版の標準化. (自主ラウンドテーブル) 発達障害が疑われる児童生徒のためのアセスメント・バッテリーの開発と適用—学校での早期の気づきと理解に向けて—. 第22回日本発達心理学会大会, 東京, 2011.3-25-27.

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む) なし

## I. 参考・引用文献

- 1) 神尾陽子, 辻井弘美, 稲田尚子, 井口英子, 黒田美保, 小山智典, 宇野洋太, 奥寺 崇, 市川宏伸, 高木晶子 (2009) 対人応答性尺度 (Social Responsiveness Scale ; SRS) 日本語版の妥当性検証 : 広汎性発達障害日本自閉症協会評定尺度 (ASD-Autism Society Japan Rating Scales ; PARS) との比較. 精神医学 51(11), 1101-1109.
- 2) 神尾陽子, 森脇愛子, 土屋政雄, 小山智典, 黒田美保 (2010) 一般児童における発達障害の有病率と関連要因に関する研究. 構成労働科学研究費補助金 こころの健康科学研究事業平成21年度総括・分担研究報告書「1歳からの広汎性発達障害の出現とその発達の変化 : 地域ベースの横断的および縦断的研究」. 11-14.
- 3) Goodman R. (1997) The Strength and Difficulties Questionnaire : A Research Note. Journal of Child Psychology and Psychiatry, 38(5), 581-586.
- 4) Goodman R., Renfrew D. & Mullick M.

- (2000) Predicting type of psychiatric disorder from Strengths and Difficulties Questionnaire (SDQ) scores in child mental health clinics in London and Dhaka. *European Children and Adolescent Psychiatry*, 9, 129-134.
- 5) Kanne S. M., Christ A. E. & Reiersen A. M. (2009) Psychiatric Symptoms and Psychosocial Difficulties in Young Adults with Autistic Traits. *Journal of Developmental Disorders*, 39, 827-833.
- 6) Ooi Y. P., Tan Z. J., Lim C. X., Goh T. J. & Sung M. (2010) Prevalence of behavioral and emotional problems in children with high-functioning autism spectrum disorders. *The Royal Australian and New Zealand College of Psychiatrists*, 1-6.
- 7) Matsuishi T., Nagano M., Arai Y., Tanaka Y., Iwasaki M., Yamashita Y., Nagamitsu S., Iizuka C., Ohya T., Shibuya K., Hara M., Matsuda K., Tsuda A. & Kakuma T. (2008) Scale properties of the Japanese version of the Strength and Difficulties Questionnaire (SDQ) : A study of infant and school children in community samples. *Brain & Development*, 30, 410-415.
- 8) Woerner W., Becker A. & Rothenberger A. (2004) Normative data and scale properties of the German parent SDQ. *European Children and Adolescent Psychiatry*, 13(2), 3-10.
- 9) Wood J. J., Drahota A., Sze K., Dyke M. V., Decker K., Fujii C., Bahng C., Renno P., Hwang W. C. & Spiker M. (2009) Brief Report : Effects of Cognitive Behavioral Therapy on Parent-Reported Autism Symptoms in School-Age Children with High-Functioning Autism. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 39, 1608-1612.

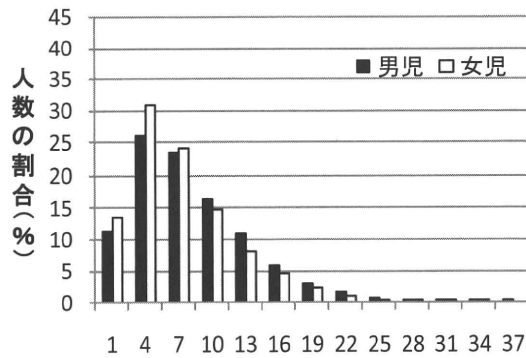
Table1 SDQ 各サブカテゴリーの平均値と標準偏差

		男児		女児	
		Mean	SD	Mean	SD
SRS	総合得点	34.3	19.1	31.1	17.3
SDQ	総合的な困難さ	8.0	5.2	7.1	4.8
	情緒の問題	1.3	1.7	1.5	1.8
	行為の問題	1.9	1.6	1.7	1.4
	不注意・多動性	3.2	2.3	2.5	2.0
	仲間関係の問題	1.6	1.7	1.4	1.5
	向社会性の強さ	5.8	2.2	6.5	2.1
		N=12762		N=12313	

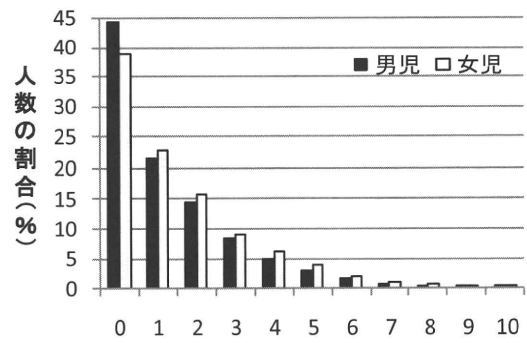
Table2 SRS 得点と SDQ 各得点との相関係数( $r$ )

		男児	女児
SDQ	総合的な困難さ	.684	.630
	情緒の問題	.471	.443
	行為の問題	.399	.377
	不注意・多動性	.524	.471
	仲間関係の問題	.566	.499
	向社会性の強さ	-.335	-.314

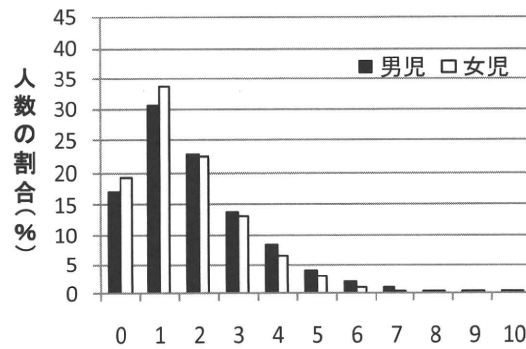
 $p_s < .001$



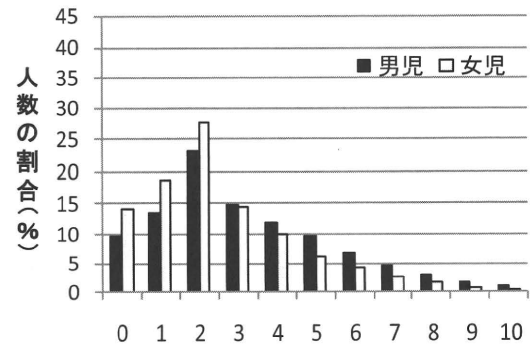
総合的な困難さ  
(高得点ほど困難)



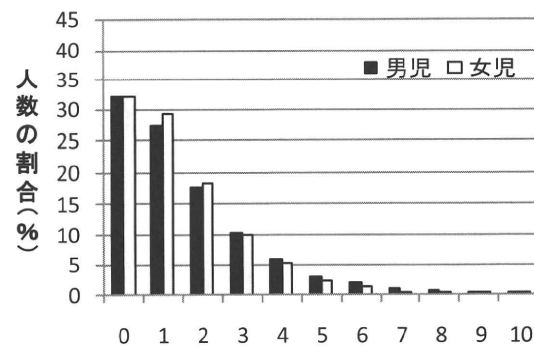
情緒の問題  
(高得点ほど困難)



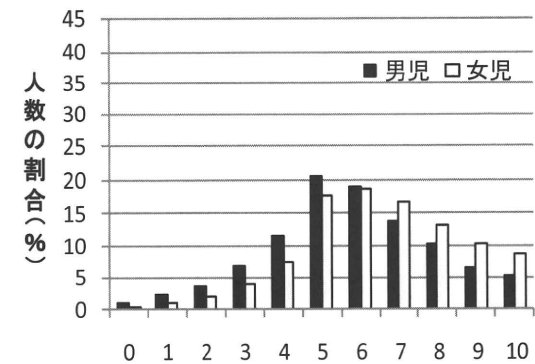
行為の問題  
(高得点ほど困難)



不注意・多動性  
(高得点ほど困難)



仲間関係の問題  
(高得点ほど困難)



向社会的の強さ  
(低得点ほど困難)

Fig.1 SDQ 総合得点および各サブカテゴリー得点の分布

Tbale3-1 SRS3 群における SDQ 総合および各サブカテゴリーの程度 3 群の度数 (n) と調整済み残差

	SDQ 3群						
	男児			女児			
	定型域	境界域	臨床域	定型域	境界域	臨床域	
総合的な困難さ	n	37	251	41	44	214	
	残差	-35.3***	2.2**	44.6***	-31.3***	3.5**	38.8***
	n	633	531	723	341	470	
S R S 3 群	残差	-44.5***	22.6***	37***	-38.4***	19.3***	32.3***
	n	9848	693	386	9358	724	398
	残差	56.6***	-21.9***	-53.7***	49.2***	-19.4***	-46.8***
計	10501	1093	1168	10122	1109	1082	
情緒の問題	n	102	163	112	61	126	
	残差	-26.7***	4.9***	31.1***	-24*	9.3***	23.1***
	n	985	231	311	987	216	331
S R S 3 群	残差	-25.2***	13.3***	20.8***	-25.3***	11.8***	22.5***
	n	9848	618	461	9441	578	461
	残差	35.0***	-14.4***	-32.9***	33.9***	-14.9***	-30.9***
計	10935	892	935	10540	855	918	
行為の問題	n	162	45	101	161	62	76
	残差	-18.8***	5.5***	20.9***	-17.3***	8.7***	15.6***
	n	1070	210	247	1061	239	234
S R S 3 群	残差	-22***	11.4***	19***	-22.3***	12.7***	18.3***
	n	9936	619	372	9498	630	352
	残差	28.5***	-12.9***	-26.7***	28.2***	-15.6***	-23.7***
計	11168	874	720	10720	931	662	

※SRS3群の内訳 ASD-Unlikely群(男児10,927名:85.6%、女児10,480名:85.1%),  
ASD-Probable群(男児1,527名:12.0%、女児1,534名:12.5%),  
ASD-Possible群(男児308名:2.4%、女児299名:2.4%).

\* p<.05 \*\* p<.01 \*\*\* p<.001



Table 3-2 SRS3 群における SDQ 総合および各サブカテゴリーの程度 3 群の度数 (n) と調整済み残差

	SDQ 3群					
	男児			女児		
	定型域	境界域	臨床域	定型域	境界域	臨床域
不注意・多動性	n	92	53	160	93	151
	残差	-28.3***	8***	29.5***	-25.5***	6.7***
	ASD-Possible					
SRS 3 群	n	924	212	365	930	337
	残差	-28.9***	13.2***	25.5***	-27.1***	14.6***
	ASD-Probable					
ASD-Unlikely	n	9860	535	459	9345	477
	残差	39.1***	-15.8***	-36.5***	36.1***	-16.5***
	計	10876	800	984	10368	980
仲間関係の問題	n	64	47	197	95	36
	残差	-36***	7.1***	41.1***	-25.6***	2.4*
	ASD-Possible					
SRS 3 群	n	966	215	346	953	284
	残差	-30.7***	14.6***	27***	-26.1***	15.7***
	ASD-Probable					
ASD-Unlikely	n	10145	486	296	9369	692
	残差	44.1***	-16.6***	-43***	35.3***	-15.6***
	計	11175	748	839	10417	1012
向社会性の問題	n	162	47	99	174	37
	残差	-17.7***	6.1***	18***	-14.2***	3.3***
	ASD-Possible					
SRS 3 群	n	1115	187	225	1140	188
	残差	-16.6***	9.3***	13.3***	-14.4***	7.6***
	ASD-Probable					
ASD-Unlikely	n	9774	617	536	9297	695
	残差	23.1***	-11.3***	-20.2***	19.5***	-8.5***
	計	11051	851	860	10611	920

\* p<.05 \*\* p<.01 \*\*\* p<.001

※SRS3群の内訳 ASD-Unlikely群(男児10,927名:85.6%、女児10,480名:85.1%)、  
ASD-Probable群(男児1,527名:12.0%、女児1,534名:12.5%)、  
ASD-Possible群(男児308名:2.4%、女児299名:2.4%)。

□ normal range (定型域) ■ borderline range (境界域) ■ clinical range (臨床域)

(SDQ カリコリー)

男児

女児

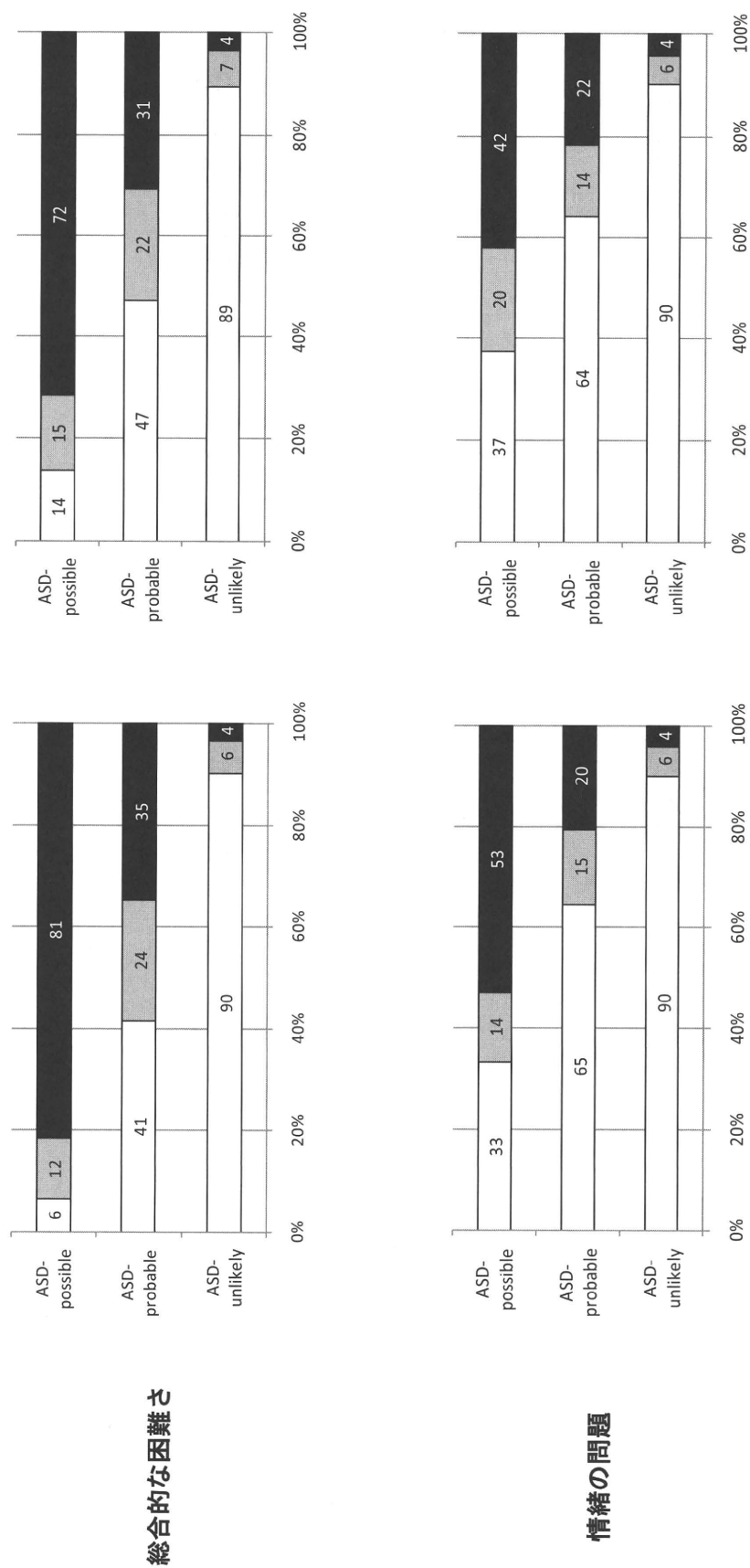
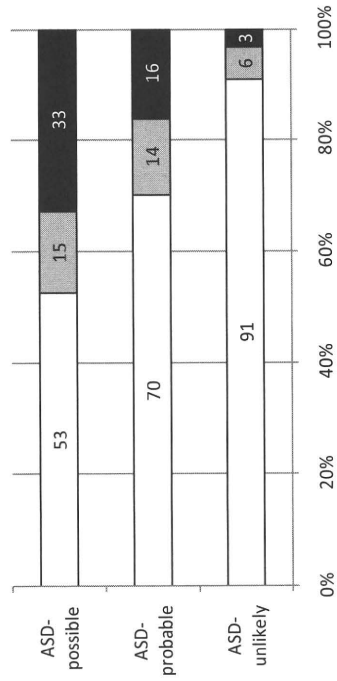


Fig.2-1 SRS3 群における SDQ 3 群の割合 (%)

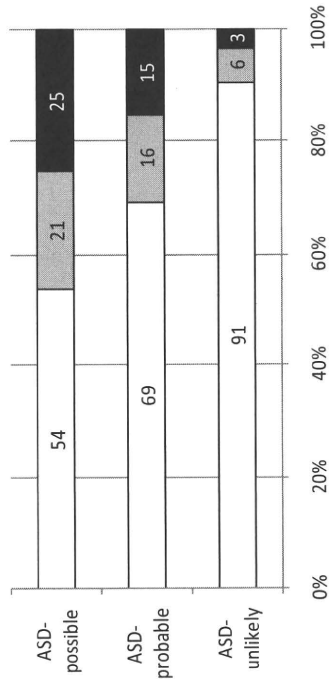
(SDQ カテゴリ)

男児



行為の問題

女児



不注意・多動性

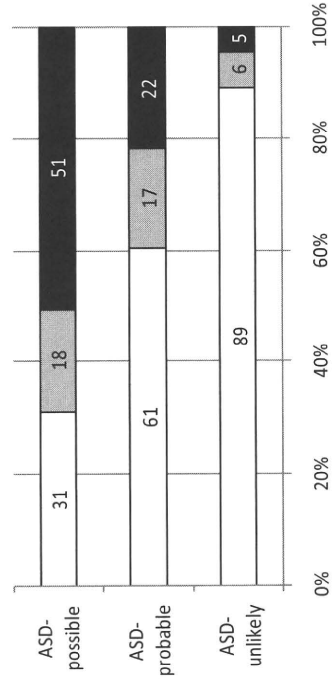
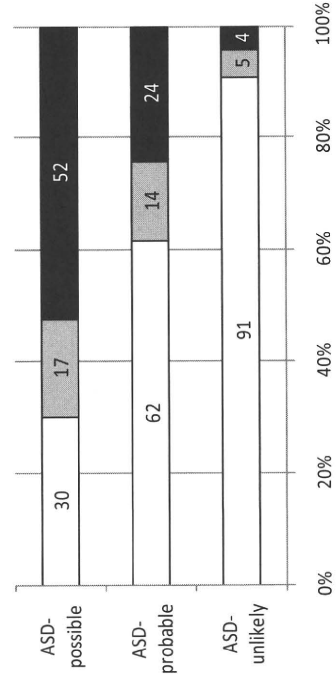
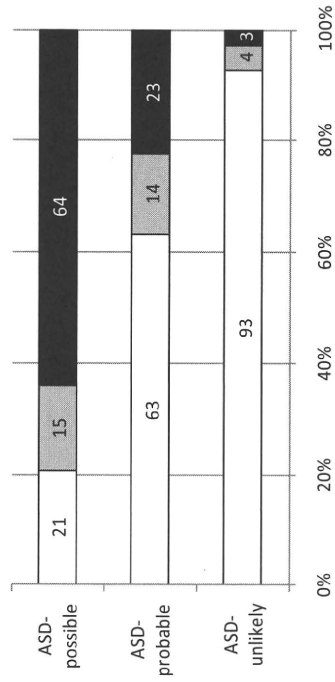


Fig.2-2 SRS3 群における SDQ 3 群の割合 (%)

(SDQ カテゴリ)

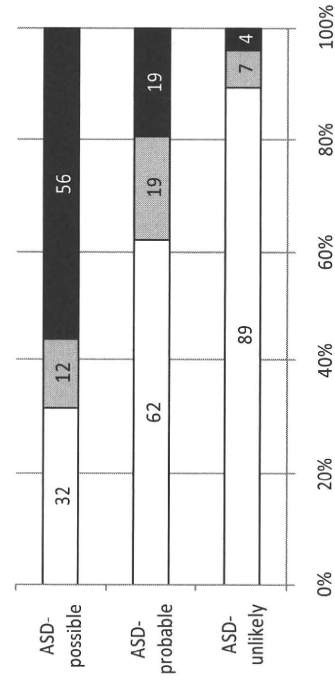
□ normal range (定型域) ■ borderline range (境界域) ■ clinical range (臨床域)

男児



仲間関係の問題

女児



向社会的性の問題

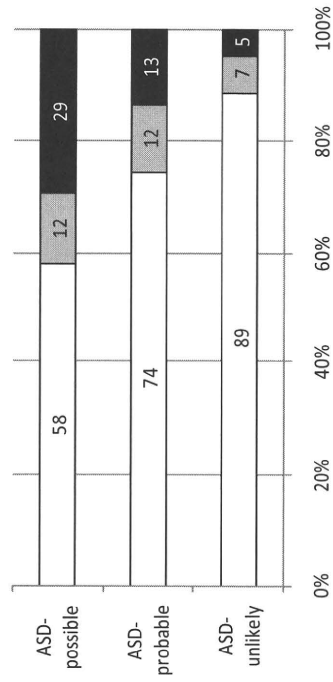
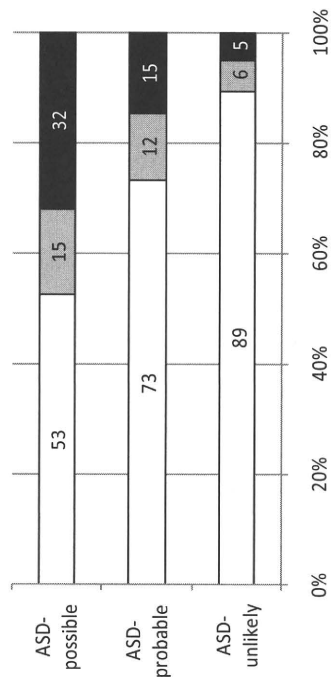


Fig.2-3 SRS3 群における SDQ 3 群の割合 (%)